

[同意書]

厚生労働科学研究費補助金医療技術評価研究事業「認定看護師による看護ケアの評価に関する研究」にあたり、インタビューに答えた内容を研究データとして提供することに同意します。

平成16年 月 日

氏名 _____ 印

私たちは、研究データ提供者のプライバシーを守り、このデータを研究以外には使用しないことをお約束いたします。また研究発表、論文報告においても個人が特定されないよう配慮しますことをお約束いたします。

平成16年 月 日

氏名 廣瀬 千也子 印

[同意書]

厚生労働科学研究費補助金医療技術評価研究事業「認定看護師による看護ケアの評価に関する研究」にあたり、インタビューに答えた内容を研究データとして提供することに同意します。

平成16年 月 日

氏名 _____ 印

私たちは、研究データ提供者のプライバシーを守り、このデータを研究以外には使用しないことをお約束いたします。また研究発表、論文報告においても個人が特定されないよう配慮しますことをお約束いたします。

平成16年 月 日

氏名 廣瀬 千也子 印

看護部長様
 認定看護師直属の管理者（部下）様
 認定看護師と協働されている医師様
 WOC 看護認定看護師様

研究テーマ： 認定看護師による看護ケアの評価に関する研究
 研究目的： 認定看護師による看護ケアの評価指標を作成する。
 主任研究者： 廣瀬 千也子（社団法人 日本看護協会 常任理事）
 分担研究者： 瀬戸 奈津子 道又 元裕（社団法人 日本看護協会 看護研修学校）

上記 研究協力をお願い

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
 平素より本会の教育事業に多大なるご理解とご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。
 私たちは厚生労働科学研究費補助金 医療技術評価研究事業として、「認定看護師による看護ケアの評価に関する研究」に取り組んでおります。
 本研究では、まず臨床現場で活躍されている認定看護師の皆様にご協力いただき、エキスパートナースの実践知を結集し、暫定的に評価指標を作成しました。次にこの評価指標の妥当性をはかるために、認定看護師の方に自己評価を、看護部長様、認定看護師の直属の管理者（認定看護師が管理者の場合は部下）の方、最も身近で協働されている医師の方に他者評価として認定看護師の実践を評価していただきたく存じます。その際比較検討するために、その分野経験を3～5年有する看護師の方の実践の評価も同時にご記入いただきたく存じます。
 本調査への協力は無記名かつ自由意思によるものではありませんが、正確を期すために多くの方々にご協力を頂きたいと存じます。またデータは統計的に処理し、個人や施設が特定できるような情報開示はいたしません。結果は厚生労働省に報告書を提出するとともに、看護系学会にて発表予定ではありますが、研究以外に使用することはございません。
 ご多用のところ誠に恐縮ではございますが、バイアスを避け確実なデータを得るため、看護部長様に全ての質問紙を収集していただき同封の返信用封筒にて平成17年3月28日（月）までにご返送くださるよう、心よりお願い申し上げます。

ご記入いただく質問紙		
看護部長様	A4 質問紙 I. 看護部長様へ	1枚
	A3 評価指標質問紙	1部（2枚）
認定看護師直属の管理者（部下）様	A3 評価指標質問紙	1部（2枚）
認定看護師と協働されている医師様	A3 評価指標質問紙	1部（2枚）
認定看護師様	A4 質問紙 II. 認定看護師の方へ	1枚
	A3 評価指標質問紙	1部（2枚）

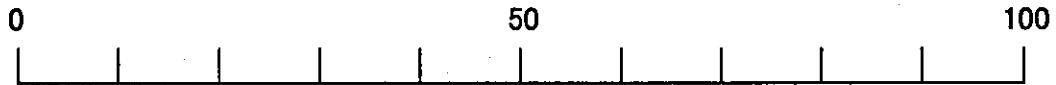
連絡先：〒204-0024 東京都清瀬市梅園1丁目2-3（社）日本看護協会 看護研修学校
 WOC 看護学科 溝上 祐子
 Eメールアドレス：○×△
 TEL：0424-92-7459 FAX：0424-92-8653
 重症集中ケア学科 道又 元裕
 Eメールアドレス：○×△□
 TEL：0424-92-8130 FAX：0424-92-8653

資料5 質問紙

I. 看護部長様へ

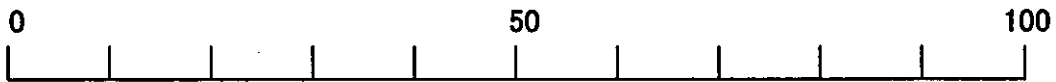
以下の質問の回答について100%を最大として下記のスケールに最も該当する場所に○を付け、その理由を()内に具体的にお書き下さい。

A. 認定看護師は施設においてその専門分野の中核的な役割を担っていますか。



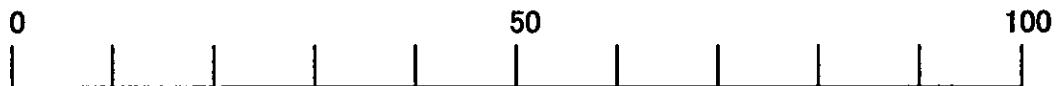
()

B. 認定看護師の実践によって、施設全体の実践力が向上しましたか。



()

C. 認定看護師をさらに活用していきたいと思いませんか。



()

D. あなたの勤務施設の認定看護師数をお答え下さい。

1. 創傷・オストミー・失禁(WOC)看護 ()人
2. 救急看護 ()人
3. 重症集中ケア ()人
4. ホスピスケア ()人
5. 感染管理 ()人
6. 糖尿病看護 ()人
7. がん性疼痛看護 ()人
8. がん化学療法看護 ()人
9. 不妊看護 ()人
10. その他 ()人

Ⅱ. 認定看護師の方へ

以下の質問に該当する選択肢の番号を右枠内に記入して下さい。
「その他」を選んだ場合は、()の中に具体的にお書き下さい。

あなたの現在の勤務施設についてお答え下さい。

A. あなたの勤務施設の種類に該当する番号を記入して下さい。

1. 総合病院
2. 大学附属病院
3. 救急専門病院
4. がん専門病院
5. 循環器専門病院
6. 訪問看護施設
7. 老人保健施設
8. 緩和ケア施設
9. こども病院
10. 外来部門(クリニック)
11. その他()

C. あなたの勤務施設の設置主体に該当する番号を記入して下さい。

1. 国立
2. 独立行政法人
3. 都道府県・市町村立
4. 学校法人
5. 医療法人
6. その他法人
7. 日本赤十字社
8. 社会保険
9. 厚生連
10. 個人
11. その他()

D. あなたの勤務施設の病床数に該当する番号を記入して下さい。

1. 200床未満
2. 200床～499床
3. 500床～799床
4. 800床～999床
5. 1000床～1199床
6. 1200床以上

資料6
1~72までの項目について、100%を最大として、下記のスケールに最も該当する
場所に○をつけて下さい。

認定看護師

分野経験3~5年の看護師

WOC看護		0	50	100(%)
1	創傷に関する最新の知識と情報を持っている			1
2	オストミーに関する最新の知識と情報を持っている			2
3	失禁に関する最新の知識と情報を持っている			3
4	患者のQOLを上げるための具体的な方法を多岐持っている			4
5	排泄障害のある対象に対してセルフケア能力を向上させることができる			5
6	ストーマ外来における瞬時の診断によりケア方法を決定できる			6
7	対象に合った器具選択を短時間でできる			7
8	ストーマ合併症などの難治症例に対して器具装着ができる			8
9	ストーマに対する受け入れが悪い症例に対する対応			9
10	緊急手術でのストーマサイトマーキングができる			10
11	経済性を加味した物品およびケア方法が考慮できる			11
12	外来と入院を通じて継続した生活指導と相談対応ができる			12
13	失禁やストーマ周囲や粘着テープによる皮膚障害に対して、早くきれいに治療させることができる			13
14	終末期の患者の安楽を考慮した褥瘡ケアができる			14
15	終末期の患者の安楽を考慮したストーマケアができる			15
16	終末期の患者の安楽を考慮したろうこうケアができる			16
17	褥瘡対策チームにおいてリーダーシップがとれる			17
18	臨床の場面に即したスタッフや医師への創傷管理の指導教育ができる			18
19	臨床の場面に即したスタッフや医師への排泄管理の指導教育ができる			19
20	ストーマから排泄物がもれないための技術の指導ができる			20
21	他病院や地域の訪問看護施設での創傷に関するケア指導			21
22	他病院や地域の訪問看護施設でのオストミーに関するケア指導			22
23	他病院や地域の訪問看護施設での失禁に関するケア指導			23
24	ストーマ造設術を受けた患者へのセルフケア指導によってが早期退院ができる			24
25	院内での褥瘡予防教育によって褥瘡発生率を低下させることができる			25
26	施設にあった褥瘡予防用具が選択でき適切な使用基準が決められる			26
27	褥瘡関連の委員会の運営や開催により院内のケアが向上できる			27
28	失禁関連の委員会の運営や開催により院内のケアが向上できる			28
29	ストーマ関連の委員会の運営や開催により院内のケアが向上できる			29
30	創傷・オストミー・失禁ケアに関する連携ができる			30
31	創傷・オストミー・失禁看護の対象者で社会生活や在宅で起こる問題の調査と解決ができる			31
32	重症でハイリスクな患者への短時間で負担をかけたケアテクニックができる			32
33	在院日数の短縮のため、ストーマ外来において不十分なセルフケアの補正や指導ができる			33
34	創傷ケア領域のスタッフナースでは管理困難なコンサルテーションができる			34
35	オストミーケア領域のスタッフナースでは管理困難なコンサルテーションができる			35
36	失禁ケア領域のスタッフナースでは管理困難なコンサルテーションができる			36
37	患者の満足が得られる器具決定ができる			37
38	患者に対してケアの根拠が論理的に説明できる			38

資料6
1~72までの項目について、100%を最大として、下記のスケールに最も該当する
場所に○をつけて下さい。

認定看護師

分野経験3~5年の看護師

WCC看護		0	50	100(%)
39	他施設で手術をうけた患者の対応管理に対応できる			39
40	ストーマ造設患者の精神的ケアを目的とした長期的に関わりができる			40
41	スタッフに対して創傷ケアの実践モデルになれる			41
42	スタッフに対してオストミーケアの実践モデルになれる			42
43	スタッフに対して失禁看護実践力を育成することができる			43
44	術前のよりの確なストーマサイトマキングができる			44
45	術者へのストーマサイトマキングの教育ができる			45
46	創傷ケア領域の実践で即活用できる実践ができる			46
47	オストミーケア領域の実践で即活用できる実践ができる			47
48	失禁ケア領域の実践で即活用できる実践ができる			48
49	手術創の管理を医師にアドバイスできる			49
50	ストーマ器具や創傷材料、スキニング用品、失禁用品の種類や使用方法を多数知っている			50
51	褥瘡の減算および加算対策が確実に行える			51
52	ストーマ外来で任意診療指導料と処置料が算出できる			52
53	スキントラブルを予防できるスキニングケアの技術が高い			53
54	ストーマをみて、形状、皮膚の状況も考慮して、その方に適した器具を直ちに提供できる			54
55	ストーマ造設にあたり、患者の受け入れが不十分なとき、医師から説明を依頼される			55
56	施設にWCCがいることで、ケアを希望され、患者さんが受診してくるようになった			56
57	ストーマ管理に関して医師にまかされている			57
58	先天性の排便障害児には一生を通じて養育的視点で関わる事ができる			58
59	ストーマケアに関して、高齢者や身体不自由患者などの能力低下がある人にも残存能力を生かした方法を提示できる。			59
60	創傷ケア領域に関しての最新の文献を提示して後者の説明ができる			60
61	オストミーケア領域に関しての最新の文献を提示して後者の説明ができる			61
62	失禁 ケア領域に関しての最新の文献を提示して後者の説明ができる			62
63	創傷ケア領域に関する安心感を相手に与えられる			63
64	オストミーケア領域に関する安心感を相手に与えられる			64
65	失禁 ケア領域に関する安心感を相手に与えられる			65
66	創傷ケアの相談にすべてのれる			66
67	オストミーケアの相談にすべてのれる			67
68	失禁 ケアの相談にすべてのれる			68
69	褥瘡対策における権限を任されており、マネジメントができる			69
70	WCC看護領域関連専門家ネットワークを駆使して情報交換や患者に関するコンサルテーションができる			70
71	WCC看護領域の学会に参加し施設に最新知識を管理活動ができる			71
72	WCC看護領域における質の高いケアができるように他職種とのコラボレーションを行い質の高い対象にあったケアができる			72

資料7

1~70までの項目について、100%を最大として、下記のスケールに最も該当する場所に○をつけて下さい。

		認定看護師				分野経験3~5年の看護師			
		0	50	100(%)	0	50	100(%)		
1	救急外来という特殊な場において的優先順位づけがケアを実践している								
2	看護の役割と責務を認識したプレホスピタルケアを実践している								
3	救急看護実践を通して対象の成長を考慮した指導をしている								
4	スタッフの能力と患者の重症度を的確に把握し、患者に最善のケアが提供されるように調整している								
5	救急初療時の限られた情報量で、患者を様々な側面からアセスメントし、問題を浮き出しながら重症・ケアを実践している								
6	救急患者を看護的かつ的確にアセスメントするためにアセスメントツールや基準を活用している								
7	救急初療外来に来院する患者や家族の不安に対して適切に対応している								
8	救急初療外来において迅速にフィジカルアセスメントができ、患者の体位を評価している								
9	救急初療外来において適切に緊急性・重症度を判断し、診療の順番を調整している								
10	電話による受診相談に適切な判断のもと対応している								
11	緊急時には限られた人・物・時間を有効に活用した随時必要な対応をしている								
12	リスク管理の視点で病院内の救急カート類の物品整備や統一に取り組んでいる								
13	救急患者のクリニカルパスや基準作成において中心的立場で取り組んでいる								
14	患者サバイバル向上のために患者・家族のニーズを把握し、業務やシステム改善に取り組んでいる								
15	病院組織評価に向けた業務改善やマニュアル整備において中心的役割を担っている								
16	呼吸障害患者の症状・病態に応じた適切な呼吸理学療法を実践している								
17	救急・重症患者の状態に応じた早期リハビリテーションを推進・実践している								
18	安全にケアを提供するために循環動態に及ぼす影響を考え、ケアの開始・中止基準を設けて実践している								
19	救急・重症患者の合併症のリスクをアセスメントし、個々の患者に適した予防的ケアを実践している								
20	救急・重症患者のせん妄のリスクをアセスメントし、個々の患者に適した予防的ケアを実践している								
21	自らが早期リハビリテーションを推進し、実践することでスタッフも実践するようになっている								
22	ルーチンワークとして実施しているケアの見直し・改善に中心的立場で取り組んでいる								
23	文献を活用し、ケアの進展を明確にしたケアの実践に取り組んでいる								
24	救急看護・家族・付帯人と密に友好的な関わりを持ち、情報収集している								
25	診療・治療を円滑に進めるために重要な情報を迅速に収集して、医療スタッフで共有している								
26	救急患者家族の心理状態を理解した適切な危機介入をしている								
27	経緯や推測で行ってきた患者や家族の危機介入が理論的根拠を持って実践できている								
28	病院内における急患対応が円滑にできるように積極的に学習の場を提供している								
29	救急場面におけるBLS/ACLSのスキルに力を入れている								
30	患者の身体・心理・社会面的情報を正確・的確に把握して情報伝達している								
31	患者・家族の希望や思いを代弁し、患者の擁護者として医師と協議している								
32	知識やスキル習得に必要な文献・教材をスタッフに紹介・提供している								
33	医師と看護師が治療やケアについて相互理解するための調整役割を担っている								
34	病院内の救急看護教育プログラムの作成や運営に積極的に関わっている								
35	病院内の救急看護教育プログラムの作成や運営に積極的に関わっている								

資料7
1~70までの項目について、100%を最大として、下記のスケールに最も該当する場所に
○をつけて下さい。

認定看護師

分野経験3~5年の看護師

救急看護		0	50	100(%)
36	初級看護教育プログラムの作成や運営に積極的に関わっている			38
37	状況設定した臨場感のあるBLS/ACLS指導を実施している			37
38	病院内において定期的に基づくBLS/ACLSを推進し、指導している			38
39	病院内の看護スタッフを対象にAEDの教育を実施している			39
40	救急看護を深めるために学食やセミナー参加を助めている			40
41	救急隊員や救急教命士に対する救急看護の指導・教育を一部行っている			41
42	病院単位で行う勉強会の開催に関する相談や支援をしている			42
43	教育・指導計画を基に対象者をアセスメントして教育内容を検討している			43
44	教育・指導対象者のニーズや要望に沿った勉強会を企画し実施している			44
45	災害時対応に関するマニュアル作りや訓練においてメンバーとして参加している			45
46	災害時対応に関する教育・訓練において指導者として関わっている			46
47	付属の大学短大・専門学校等で救急看護の講義を担当している			47
48	院内のスタッフから最新のトピックスや臨床で疑問に思っている事項について講義依頼がある			48
49	適切なリソースを活用し、協働して効果的な講義をしている			49
50	スタッフから救急患者・家族の危機介入方法について相談される			50
51	看護研究においてリーダーシップを発揮して行なっている			51
52	看護研究において指導的立場で関わっている			52
53	地域、社会貢献(公開講座など)を視野に入れた活動をしている			53
54	治療やケアに関連する患者の病態やケア方法について相談される			54
55	看護職が不安定な患者のケアについて相談される			55
56	病院内や病棟単位で計画する救急看護に関する教育について相談される			56
57	病院内を定期的にラウンドすることにより、相談回数が増加している			57
58	院内教育において一般の看護職と比較し、認定看護師の方が具体的に分かりやすい説明ができると言われる			58
59	1次・2次救急患者のトリアージと対応ができ、認定看護師の育成を任されている			59
60	認定看護師が勤務帯にいと安心感があると云われる			60
61	他のスタッフと比較し認定看護師の方が知識・スキル・対人関係は優れていると云われる			61
62	スタッフの知識やスキルの教育について医師から意見を求められる			62
63	患者家族の対応について医師から意見を求められたり、相談される			63
64	多くの情報量から適切なアドバイスがもたらされると言われる			64
65	患者の状態変化に応じた対応の指示をスタッフに迅速に出せる			65
66	実施したBLSやACLSの指導効果を継続的なスキルチェックで評価している			66
67	教育・指導の効果について自己評価・他者評価を用いて評価している			67
68	変化を促した過程を外側に示して表現できるように努力している			68
69	救急看護現場をより良い方向に変化させるよう期待されている			69
70	外側の最新情報を取り込んでいける職場環境を形成できるよう努力している			70

資料8
 ~76までの項目について、100%を最大として、下記のスケールに最も該当する
 場所に○をつけて下さい。

認定看護師
 分野経験3~5年の看護師

		0	50	100(%)
1	重症集中ケアという特殊な場において的確に優先順位づけがけケアを実施している。			
2	フィジカルアセスメント技術を駆使した適切な看護ケアを実施している。			
3	患者の状態から得られるモニタリングデータの裏化を適切にアセスメントしている。			
4	患者の合併症のリスクをアセスメントし、個々の患者に適した予防的ケアを実施している。			
5	患者の意欲・行動もしくは持病の悪化から、患者の状態を予測し、予防的介入を行っている。			
6	過去の経緯と暫時的データを基に、患者の経過を予測し、患者の問題を抽出している。			
7	患者のケアニーズを的確に予測している。			
8	患者がさらに重篤化しないための適切な看護を実施している。			
9	患者を包括的かつ的確にアセスメントするためにアセスメントツールや基準を作成している。			
10	患者の重要な変化の事実およびアセスメント結果を適切かつタイムリーに医師に報告している。			
11	患者の重要な変化の事実を基に考慮し適切な対応を行っている。			
12	患者の残存機能のアセスメントし、それを最大限に活かした援助をしている。			
13	患者の基本的な生活習慣を最大限に維持できるように配慮している。			
14	患者の回復意欲を高めるような適切な援助を行っている。			
15	患者の状態に応じた早期リハビリテーションを推進・実施している。			
16	患者が早期に離床が図れるための適切な援助を行っている。			
17	患者の状態に応じた栄養療法が行われているか否かを適切に判断している。			
18	患者の食に対する欲求が満たされるために最大限の援助を行っている。			
19	検査・種下輸液の低下した患者に適切な援助を行っている。			
20	患者の状態に応じた適切な感染予防対策を実施している。			
21	防菌な皮膚を有する患者に適切な予防を含めた適切なスキンケアを行っている。			
22	スキンケアに陥った患者に適切なスキンケアを実施している。			
23	患者の状態に応じた適切な呼吸ケアを実施している。			
24	患者が人工呼吸器から早期に離床できるように適切な援助を実施している。			
25	VAP予防のために適切なオーラルケアを実施している。			
26	褥瘡防止が不安定な患者に適切な対応を行っている。			
27	体温が不安定な患者に対して適切な体温管理を実施している。			
28	服用性副作用を予防するための適切な援助を実施している。			
29	薬剤管理患者の薬物レベルをアップさせるために適切な援助を行っている。			
30	患者の痛みを最大限に軽減するための適切な援助を実施している。			
31	患者のせん妄のリスクをアセスメントし、個々の患者に適した予防的ケアを実施している。			
32	不安な身体拘束を避けるための適切な看護ケアを実施している。			
33	機械的補助装置に依存しなければならない患者の安全管理を適切に実施している。			
34	患者に装着されるME機器を安全に正しく取り扱うことができる(異常の回避方法を知っている)。			
35	重症患者が収容される病室の特殊性を理解し、患者状況に合わせた搬送環境の調整を行っている。			
36	患者・家族の不安、苦痛が緩和できるように適切な援助を行っている。			
37	患者・家族が有する問題を予知把握し、解決行動がとれる。			
38	患者や家族の危機介入が理論的根拠を有して実施されている。			
39	患者に安心感を与えるよう、タッチングやコミュニケーション技術を実施し、適切な援助を行っている。			
40	常に倫理的問題に対して適切に対応している。			

資料8
～76までの項目について、100%を最大として、下記のスケールに最も該当する
場所に○をつけて下さい。

分野経験3～5年の看護師

	0	50	100(%)
重症集中ケア			
41	インフォームドコンセントに関わるプロセスを把握し、必要時適切に介入している。		41
42	同職者に対し、看護実践を通してケア技術に関する指導を適切に行っている。		42
43	同職者自身が問題解決できるような適切な支援を行っている。		43
44	同職者に対して看護ケアの向上が図れるように指導的に関わっている。		44
45	介護施設教育プログラムの一端を企画している。		45
46	介護施設教育プログラムの一端を実施している。		46
47	院内のスタッフに、最新のトピックや臨床で疑問に思っている事項について講義を行っている。		47
48	院内教育において一般の看護師と比較して具体的で分かりやすい講義ができる。		48
49	介護施設あるいは他の教育施設で重症患者看護の講義を担当している		49
50	介護施設と同職者から専門領域のコンサルテーションを受けている。		50
51	指示された与薬薬剤の副作用、反応、効果、毒性および薬歴などについてモニタリングしている。		51
52	患者の治療・看護に関わるディスカッションを必要時、タイムリーに他職種と行える。		52
53	医師の力量を判断し、適切な指示が得られるような工夫を行っている。		53
54	日常の看護実践を科学的・研究的視点で評価し、実践している。		54
55	看護研究において指導的立場で関わっている。		55
56	効果的な看護ケアを開発する取り組みを行っている。		56
57	採られた費型を上手に活用して、患者のニーズに相応したケアや創薬工夫を行っている。		57
58	他職種から患者家族の対応について意見を求められたり、相談されることが多い。		58
59	同職者の実践モデルとなっている。		59
60	医療事故に対するリスクマネジメントに携わっている。		60
61	ミスやエラーを起す回数が極めて少ない。		61
62	同職者から同じ勤務先にいると安心感があるとされる。		62
63	他職種からの信頼が高い。		63
64	職場の仲間の志気を高めることに大きく貢献している。		64
65	同職者の中では、知識が極めて豊富である。		65
66	同職者の中では、技術がとても優れている。		66
67	同職者の中では、対人関係が優れている。		67
68	重症患者がケアでできる看護師の育成を行っている。		68
69	介護施設の看護ケア向上を目的に他職種の定期的ラウンドを実施している。		69
70	スタッフの能力と患者の重症度を的確に把握し、患者に最善のケアが提供されるように調整している。		70
71	リスク管理の視点で病院内の緊急カート類の物品整備や統一に取り組んでいる。		71
72	患者サービス向上のために、業務やシステム改善に取り組んでいる。		72
73	安全にケアを提供するためのケア基準を設けて実践している。		73
74	重症集中ケア看護を深めるために学会やセミナーに積極的に参加し、自己研鑽を図っている。		74
75	病院施設評価に向けた業務改善やマニュアル整備において中心的役割を担っている。		75
76	地域・社会貢献(公開講座など)を視野に入れた活動をしている。		76

	0	50	100(%)
41			
42			
43			
44			
45			
46			
47			
48			
49			
50			
51			
52			
53			
54			
55			
56			
57			
58			
59			
60			
61			
62			
63			
64			
65			
66			
67			
68			
69			
70			
71			
72			
73			
74			
75			
76			

資料9 研究成果の公表予定

発表者氏名	タイトル	発表誌名	巻号	出版年
溝上祐子・田中秀子・積美保子他	WOC看護認定看護師による看護ケアの評価に関する研究	日本創傷・オストミー・失禁ケア研究会誌	第10巻 第2号	2006
道又元裕・尾野敏明・中田 諭他	重症集中ケア認定看護師による看護ケアの評価に関する研究	日本クリティカルケア看護学会誌	第2巻 第1号	2006
瀬川久江・浅香えみ子・菅原美樹他	救急看護認定看護師による看護ケアの評価に関する研究	日本救急看護学会誌	第7巻 第2号	2006
瀬戸奈津子・廣瀬千也子・森加苗愛他	認定看護師による看護ケアの評価に関する研究	日本看護管理学会	第8巻 第2号	2006
瀬戸奈津子・森加苗愛・廣瀬千也子他	認定看護師による看護ケアの評価と検証	看護管理	未定	2006
廣瀬千也子・瀬戸奈津子・森加苗愛他	認定看護師による看護ケアの評価指標とその活用方法	看護	未定	2006